

市民からのお便り (親子クイズ) 年に数回上京しているので、高知家の一員として高知の良さをPRしたいと思います。

市民からのお便り (親子クイズ) 「高」がわかるとあとは勝手に「知」と「家」が... だって高知家の人間だもの!

自然に触れることが大好きで、教職員を退職してからは、ほぼ毎日畑仕事や果樹の世話をしています。青春時代を太平洋戦争の中で過ごし、女学生の時は京都の紡績工場に働いていました。一緒に暮らしている孫を見てみると、戦争を経験した自分たちが声を大にして、戦争の悲惨さや愚かさや伝えていかねばと思いますね。健康のために毎日たくさんの人と会話をするように心掛けています。でも実行するのは難しいので、その代わりに国会中継を見ながら、画面に向かって一緒に討論しています(笑)。

健康の秘訣は国会中継!?



たかた ひとみ 高田 仁美さん (大桶乙)

笑顔が取り柄です!



まつした けいこ 松下 恵子さん (前浜)

夫と長男夫婦、孫2人の6人で暮らしています。家族は代々農家で、長男で6代目になります。農作業はほとんど長男がしていて、私は弁当や惣菜・菓子などの加工品を作っています。趣味はフラダンスで、習い始めて約13年になります。イベントで踊ることも多く、よさこい祭りや、フラ発祥の地ハワイでも踊りました。フラの格好をしていると、よく現地の人と間違えられる(笑)。モットーは「泣いて暮らすより笑って暮らす」です。後ろを振り向かず、前を向いて笑っていますね。

なんこくオンライン

180



なんこく歴史散歩 第32回

野田城跡は、ごめん・なはり線の後免町駅から東へ約500mの場所にあり、現在は下野田公民館を中心に住宅や田園が広がっていますが、詰があった場所は今でも城と呼ばれています。公民館西側の小さな丘の上には、城八幡が木立の中に祀られています。かつては、それを中心に約6反余りの城域がありました。城にもともと二重の堀があり、土塁によって区切られた曲輪が詰を取り囲んでいました。明治のころまで土塁の残丘が数となつて所々にあつたとされていますが、今では北側にわずかに地形が残るだけです。



野田城八幡

野田城跡

城主の野田氏は、長宗我部氏の古い分流です。鎌倉初期の13世紀中ごろ、長宗我部満幸の長男・兼光が本家の7代目を継ぎ、次男が広井氏、三男が中島氏、四男が野田氏、五男が大黒氏を創立したと言われています。長宗我部元親の時代には野田甚左衛門が城主でした。彼は天正3(1575)年、長宗我部元親に



※お問い合わせは生涯学習課文化財係

(☎880・6569) まで

親子クイズ 518

Q. ○ーン!ハイ、出来上がり!料理に大活躍。左の日本語を英語で書き、□に入る一文字を順に並べてください。並べて出来る単語を日本語で言うと?

- ① からし □ U S T A R D
② 油 O □ L
③ ケチャップ K E T □ H U P
④ 砂糖 S U G A □
⑤ マヨネーズ M A Y □ N N A I S E
⑥ カレー粉 C U R R Y P O □ D E R
⑦ 塩 S □ L T
⑧ 酢 □ I N E G A R
⑨ 胡椒 P □ P P E R

■応募締切/7月13日(月)必着
■あて先/〒783-8501 南国市大桶甲2301 南国市企画課「親子クイズ」係
*はがきで応募
■賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数/135通 ★正解率/90%
親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

【第517回解答】

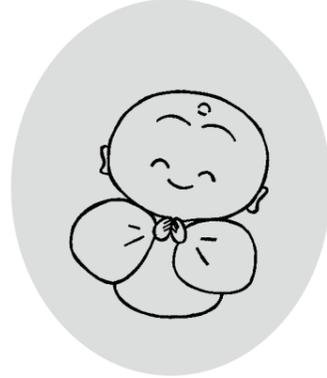
高知家

【第517回当選者】

- 島井 紀子 (上野田)
島崎 由妃 (大桶甲)
長尾 広子 (大桶甲)
曳地 究 (駅前町)
森国 民子 (浜改田)

53 人権学習シリーズ

「生きる力」



目まぐるしく動くこの現代社会では、一人一人が「生きる力」を養い、貯え、維持していく必要がありますが、それは難しいことだと思います。先日、NHKの番組で京都、嵐山の直指庵(じきしあん)というお寺が紹介されました。お寺の本堂にはノートが置いてあり、そこを訪れた人が、それぞれの思いを書いていきます。「思い出草ノート」と名付けられたそのノートには、「そつとその意地を私の心(ノート)に捨ててください。苦しむあなたをみているのがつらいのです」という言葉が添えられていました。お寺はとても静かで日常の喧騒からは隔絶されたように見えました。そんな場所に行くこと、きつと飾ることのない素のままの心に向き合うことができるのでしよう。多くの人が、胸に抱えてきた苦しみや哀しみ、後悔などを綴っていました。ノートの数は5千冊にも及ぶそうです。厳しい現実を、どう受容していか。それは簡単なことではありませんが、その方法の一つとしてこの直指庵のような場所が必要とされているように感じました。自分の気持ちを見つめ直し、そして

*このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

※お問い合わせは 人権啓発広報委員会 (☎880・6569) まで